



10月末に完成した堆肥センター

# 山田町堆肥センターが完成

## 資源循環型農業の構築に向けて

家畜排せつ物から完熟たい肥を製造する「山田町堆肥センター」が豊間根の繫地区に建設され、十一月一日から試験運転を行っています。資源循環型農業の構築に向けて建設されたもので、製造されたたい肥は農地への還元を行うための製品として販売されるほか、畜舎の床に敷き詰める敷料などとして利用されます。

本町で発生する家畜排せつ物は、年間約二万八千トで、これまでほとんどが野積みによるたい肥化処理がされてきました。このたい肥は、自己の農地への還元や販売、譲渡などで約二万トが利用され、残る約八千トは利用されずに野積みそのまま放置されていました。これら野積みされたたい肥は悪臭や水質の汚染など、環境を悪化させる心配があったことから、平成十五年度から農林水産省の補助制度を導入して堆肥センターを建設したものです。

施設には、牛ふん系発酵棟三棟、豚ふん系発酵棟一棟、乾燥棟、製品保管庫、管理棟などを備えていて、敷地面積は一万九千二百七十七平方メートル。建設にか

牛ふん系発酵棟。好気性微生物の発酵を促すため、ロータリーかくはん機で3日に1回程度かくはんします

かった総事業費は、約四億円となっております。

たい肥化システム

ムには、牛ふん系は機械かくはん発酵、豚ふん系は堆積発酵を採用。畜産農家が搬入した家畜排せつ物は発酵槽に投入され、好気性微生物により分解されます。微生物の発酵を促すため、牛ふん系では三日に一回程度、豚ふん系は二週間に一回程度かくはんし、微生物に空気を補給。発酵時の温度で病原菌や雑草の種子などは死滅し、約五十日成家畜ふん尿の汚物感がなくなり、衛生的で取り扱いやすく、土壌や作物に害を与えない完熟たい肥になります。

### エコファーム山田が施設の管理運営行う

施設の管理・運営については、民間活力を活用するため、施設利用農家で組織する農事組合法人エコファーム山田（芳賀



指定管理者指定の調印後、がっちり握手を交わす沼崎喜一町長(左)と芳賀敏代表理事=10月13日・町長室=

### 環境保全協定を締結 公害の防止に努める

敏代表理事・組合員十六人)を指定管理者に指定。十一月一日から同組合が試験運転を行っています。販売用の製品たい肥は来年一月に出来上がりますが、出荷は来春を予定。年間六千四百トの販売を目指します。

大気汚染や水質汚濁、悪臭などの公害防止対策については、六月十五日に町と東豊間根自治会・繫地区(伊藤進一地区会長)、農事組合法人エコファーム山田の三者により環境保全協定を締結。地域住民の健康保護と快適な生活環境の保全のため協力し合うことを確認しました。施設には公害防止対策として、消臭装置や施設内の排水の流出を防ぐ調整池が設置されています。